

足立インターナショナルアカデミーの教育ビジョン

Adachi International Academy (AIA)

当アカデミーは足立区およびその周辺に住んでいる double の子供たちや外国人労働者の子供たちあるいは不登校の子供たちの教育ニーズ(特に日本語教育)に応じようとしています。

その対象年齢は小学～中学で、同時に大人(外国人)の識字教育(日本語+)も行います。今の日本の社会に十分に適用できるよう、そして、将来のための必要な補足教育も行います。

当アカデミーはキリスト教精神に基づいたパイロット教育プロジェクトとして、教育に携わるいくつかのカトリック修道会「合同」のもとで設立されました。

一対一「person to person」という人間的な関わりを大切にする教育法を使い、生徒、ボランティアが共に成長していく「共育」の場を目指しています。

1. キリスト教教育のビジョン

世界を積極的に受け入れる

キリスト教教育は、存在するすべてのもの、あらゆる真理、あらゆる知識の創造主として神を敬います。神は、自ら創られた宇宙の中、自然、歴史、人々の中におられ、働かれます。キリスト教教育は「神の偉大さにみちた」この世界の根源的な善さを確信し、天地万物を研究や観想に値するものとみなします。

神は「神の似姿として創造された」人間の中にご自分を現わされます。そのため、キリスト教教育は、人生の意味を探し求め、一人ひとりの生徒が神に愛された人として全人的な成長をすることに力を入れます。神の愛に応えるためには、当然、自由意志によって応えなければなりません。そこで、一人ひとりが次のような自由を持つように呼びかけられています。

- 自分の言行とその結果に関する責任を負い、自分を差し出せる自由。
- 信仰を持って人生の目的である真の幸福へ向かって働ける自由。すなわち人々とともに天地万物に癒しをもたらす神の国に奉仕する自由。

全人的に成長をするのを助ける

キリスト教教育は、一人ひとりの生徒が、社会の一員として、神から与えられた才能のすべてを可能な限り伸ばしていくための手助けをすることです。その教育の第一の目的は「他者に仕える人」を育成することでなければなりません。

すなわち、自分自身のためではなく、神のため、全世界のために命を与えたキリストのために生きる人間、最も弱い者を大切にしていくことが出来る人間です。

実生活とのつながりを大切にする

信仰の目で見れば、すべての自然現象や人間の営みの中、歴史全体の中、とりわけ一人ひとりの生きた体験の中に、神を見出すことが出来ます。

キリスト教教育は、全教科にわたって、生徒一人ひとりの想像力、情操、創造性の育成に大きな力を注ぎます。これらは情操を豊かなものにし、知識偏重を防ぐとともに、全人的成長に不可欠なものであり、美の中でご自身を現す神をみいだす助けとなるものです。

キリスト教教育は、伝統を生かし、「話す」ことや「書く」ことの技術を伸ばすと同時に、映画やIT機器のような現代的なコミュニケーション手段を使いこなすための手助けもします。

内省の習慣をもち、自分で身につけた人生観をもつ、バランスのとれた人間を育てるということです。このような成長を援助するために、どの教科もプログラム全体の中で役割があり、一人ひとりの全人的発達に寄与するようになっています。

キリスト教教育は、一人ひとりに働く聖霊の息吹を大切にします。信仰を押しつけることはできませんが、神への信仰に満ちた応えへと導く機会を設けます。

信仰と文化との対話を奨励する

キリスト教教育は、それぞれの文化を心から尊敬し、それぞれの文化の善さと足りなさを前向きに評価できるように、他の文化との触れ合いを勧めます。当アカデミーとしても、特にこの点は大事にします。

II. 教授法

一人ひとりに心を配る

当アカデミーの教育の中心は一人ひとりの人間を育てることです。自らの個性にあったペースで成長し、学習目標を達成していきます。責任をもって自由を行使できるようになるための成長は、生徒と教師の1対1の人間関係によって育てられます。ボランティアは、勉学面の指導にとどまらず、生徒たちの日常生活にも心を配ります。一人ひとりの生徒の知的、情緒的、倫理的、霊的、成長に関心もち、一人ひとりが自分の価値に目覚め、共同体の中で責任を持てるような人となるよう励まします。生徒のプライバシーを尊重しながら、人生の意味に対する生徒の心配や悩みに耳を傾けます。生徒と喜びや悲しみをともにし、個人としての成長や、他人との人間関係について示唆を与えます。他者に心を配る生き方も選択できる価値観を育てていくのです。大人たちは生徒の模範となる生き方をするように努め、また自分の人生経験を喜んで生徒と分かち合います。

学習への生徒の自主的参加を重視する

自由参加への大切なステップには個人的な勉学、自分から何かが発見できる場、創造性を働かせる場、内省する態度などが含まれます。ボランティアの仕事は、一人ひとりの生徒が自学自習できる人、自分自身の教育に責任を持てる人になるまで見守ることです。

私たちが与える教育よりももっと重要なのは、自己教育をつづけることのできる能力と意欲と言ってもよいでしょう。

キリスト教教育は、価値観や生活態度、行動の基準を評価する力を育てます。つまり、意志の力を育てます。何がよくて何が悪いかを知り、善いことの中に優先順位をつけるための知識が必要です。教育には必ず道徳的次元がともないます。知育は徳育とつながっているのです

生徒たちの成長を援助し、さまざまな問いかけによって自分自身の経験を振り返るよう指導しながら、彼らが神体験に気づく雰囲気を作ります。生徒は、自分に与えられた賜物(才能)を受け入れ、それを伸ばしていく一方で、自分の限界を認め、可能なかぎりそれを乗り越える努力をします。教育プロセスは、ありのままの自分に向き合うことによって、自分がさまざまな影響を受けていることに気づかせ、真

偽、善悪に関する単純な知識を超えた批判能力をそだてます。

キリスト教教育は、生徒の内に、世の中の現実を知り、それを批判的に評価する力を育てるよう努めます。それによって生徒は、人間や社会構造は変わりうるものだと知り、また、変えていく作業に献身的に参加するようになります。そして、いっそう正義にかなった社会構造を形成し、全ての人の尊厳を一層重んじる形で自由意思を生かす世の中を作り上げる仕事に参加するようになります。

Ⅲ. キリスト教育の行動指針

「より、いっそう」を求めることは、当アカデミーが所在している地域のニーズに最もよく応えて、生徒の資質や年齢に応じた種類や水準の教育を提供することになります。

成長段階に応じて、各個人の能力を可能なかぎり成長させること意味し、又、生涯を通して続ける意欲と、のばされた才能を他者のために使うモチベーションを育てることを意味します。

保護者も、当然、教育共同体の一員です。家庭と当アカデミーの間は、頻繁に連絡が取られ、絶えず対話が取られています。保護者にはいつも当アカデミーの活動が知られますし、子どもの成長に関して話し合うために教師と面談することも勧められます。保護者には、保護者としての役割を果たすために成長するさまざまな機会が提供されます。このようにして、保護者は家庭や家族の中で教育者としての権利や責任を全うするための助けを受けると同時に、保護者の側からも当アカデミーの教育活動に貢献するわけです。

当アカデミーは、地域の現状に密着し、現代社会のニーズを研究します。その上で、当アカデミーの方針、組織、教授法、その他取り巻く雰囲気を取り返し、目標達成のため、教育理念の実践のため、最も善い方法を求めます。このような振り返りに基づいて、必要と思われる変更が加えられます。

専門的能力と授業技術の向上、そして霊的領域での成長が必要となります。そのためにボランティアのための養成プログラムを設けるようにします。

教授法は、分析、反復、振り返り、及び、まとめを含みます。教授法は理論と応用を結び合わせなければなりません。大切なことは、どれだけ多くを教えるかではなく、充実した、深みのある、基礎的教育を行うことです。

当アカデミーは、どの生徒も十分に成長できるように、それぞれの必要に応じて学習や生活面の相談にのります。

2011年4月12日
足立インターナショナルアカデミー